

[成果情報名]早生で食味、果実外観に優れるイチゴ新品種「紅い雫」の育成

[要約]「あまおとめ」と「紅ほっぺ」を交配した実生個体から育成した新品種「紅い雫」は、早生で食味、果実外観に優れる促成栽培向けの品種である。果形は円錐形で揃いが良く、果皮は橙赤色で光沢がある。

[キーワード]イチゴ、新品種、促成栽培、早生、良食味

[担当]農業研究部、作物育種室

[代表連絡先]電話 089-993-2020

[研究所名]愛媛県農林水産研究所

[分類]研究成果情報

[背景・ねらい]

イチゴは、2012年の愛媛県内栽培面積が78.4ha、生産額が約20億円であり、野菜類の中で、キュウリ、トマトに次いで生産額の多い基幹品目である。主要品種は、「紅ほっぺ」と「あまおとめ」である。「紅ほっぺ」は、大果多収品種であるが、収穫開始時期が遅く糖度がやや低い。一方、「あまおとめ」は、収穫開始時期が早く食味にも優れるが、果皮色がやや薄く厳寒期には着色不良果の発生が問題となる。

そこで、収穫開始時期が早く、食味が良好で果皮の着色に優れる品種を育成する。

[成果の内容・特徴]

1. 「紅い雫」は、2004年度に「あまおとめ」に「紅ほっぺ」を交配した実生個体から育成した、早生で食味が良く果実外観に優れる促成栽培向けの品種である。
2. 草姿は立性で、草勢はやや強い(図1、表1)。ランナーの発生は、「あまおとめ」や「紅ほっぺ」より少ない(表1)。
3. 頂果房の花芽分化は9月10日頃(データ省略)で「あまおとめ」並かやや早く、頂果房の収穫開始は11月中旬である。頂果房の花数は10個程度で、「あまおとめ」より少ない。年内収量は「あまおとめ」と同程度であるが、4月末までの収量は「あまおとめ」より多い(表2)。
4. 果形は円錐形で揃いが良く、果皮色は橙赤色で光沢があり果実外観に優れる(図2、表1)。果実は硬く傷みは少ない(表1)。厳寒期にも、がく下までよく着色し、着色不良果の発生は0.4%と少ない(表2)。糖度は「あまおとめ」より高く、適度な酸味があり食味が良い(表2)。
5. 萎黄病には「あまおとめ」、「紅ほっぺ」より強い(データ省略)。うどんこ病の発生は「あまおとめ」より多く、「紅ほっぺ」より少ない(表2)。炭疽病は「あまおとめ」、「紅ほっぺ」と同程度に発生する(データ省略)。

[成果の活用面・留意点]

1. 頂果房の花芽分化が早く、花芽分化が容易であることから夜冷、株冷による超促成栽培にも対応できると思われるが、定植期から頂果房の果実肥大期が高温期にあたることから収益性も含め検討が必要である。
2. 頂果房の花数が少なく年内収量があがりづらいため、大苗を定植するとともに、定植後の株の充実を図り、花数の確保と大玉生産に努める。
3. ランナーの発生がやや少ないため、十分な親株数を確保する。また、ランナー発生を促すため、親株には十分な施肥を行う。
4. 普及地域は愛媛県内のみとする。

[具体的データ]



図1 第1次腋果房収穫時の「紅い雫」の草姿 (2013年2月22日撮影)



図2 「紅い雫」の果実

表1 「紅い雫」の特性

品種	草姿	草勢	ランナー数	花の数	果実の形	果皮の色	果実の光沢	果実の硬さ
紅い雫	立性	やや強	やや少	少	円錐形	橙赤	強	硬
あまおとめ	中間	強	中	中	円錐形	橙赤	強	やや硬
紅ほっぺ	立性	強	中	中	円錐形	赤	強	中

表2 「紅い雫」の生育・収量・果実品質 (2009年度)

品種	頂果房			腋果房収穫 年内		4月末まで							
	開花開始日 (月/日)	収穫開始日 (月/日)	花数 (個)	開始日 (月/日)	収量 (g/株)	収量 (g/株)	一果重 (g)	秀品果 率(%)	商品果 率(%)	糖度 (%)	酸度 (%)	着色不良 果率(%)	うどんこ 病果率(%)
紅い雫	10/21	11/19	10.2	1/30	127	764	18	20	83	11.5	0.74	0.4	1.4
あまおとめ	10/24	11/23	12.0	2/11	127	716	18	15	87	10.6	0.65	4.9	0.8
紅ほっぺ	11/2	12/4	16.0	2/13	120	828	17	19	90	9.1	0.70	2.8	3.4

定植日: 「紅い雫」9月16日、「あまおとめ」9月16日、「紅ほっぺ」9月20日、保温開始日: 10月28日、電照期間: 11月24日~3月12日

最低温度5℃で加温、施肥量(kg/10a): N 21.4、P20.5 20.0、K20 20.8 (全量基肥)

畦幅1.2m、株間23cmの2条植え、栽植密度7,200株/10a、区制: 1区10株・3区制

秀品果率: 秀品果(果形が整い、特に外観の優れた10g以上の果実)の重量割合

商品果率: 商品果(不受精、病虫害のない5g以上の果実)の重量割合

着色不良果率: 着色不良果(淡色、色むら等)の重量割合、うどんこ病果率: うどんこ病の発生した果実の個数割合

(松澤 光)

[その他]

研究課題名: 水稲野菜花き類の優良品種・種苗育成試験

予算区分: 県単

研究期間: 2004~2014年度

研究担当者: 松澤光、伊藤博章、中川建也、大西亮樹、山本和博

発表論文等: 品種登録申請: 2014年6月25日

出願公表: 2014年10月28日(出願番号第29308号)